

2023年3月期 第2四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2022年11月4日

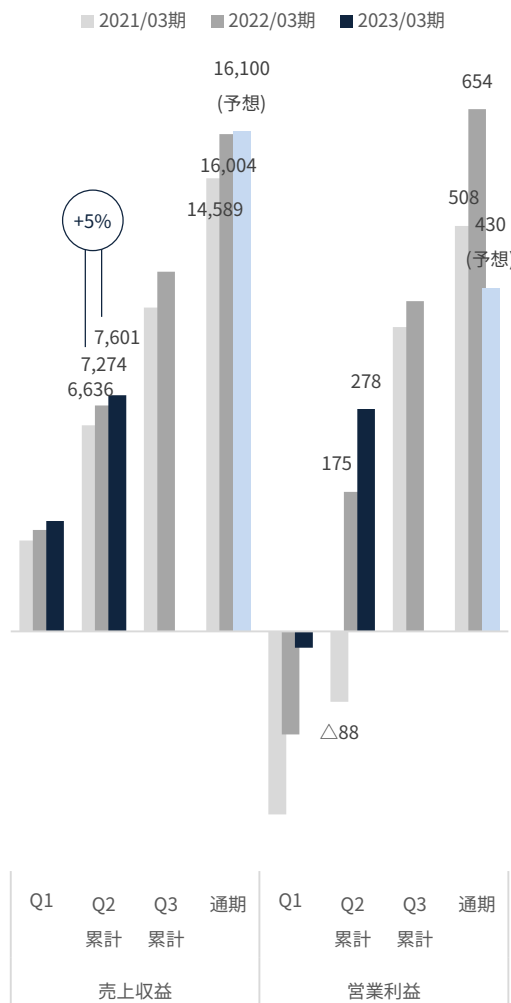
2023/03期 Q2累計 業績概要

■ 2023/03期 第2四半期累計期間は、前年同期比増収、営業利益は増益も、為替差損が発生し四半期利益は減益

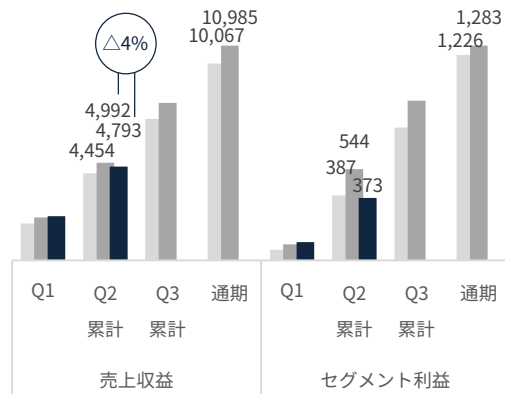
	2022/03期 Q2累計	2023/03期 Q2累計	前年同期比	(百万円)
売上収益	7,274	7,601	+ 327 (+ 4.5%)	<ul style="list-style-type: none"> BtoC需要が欧米市場で停滞するなか、BtoB事業が国内外で成長し増収
営業利益	175	278	+ 104 (+ 59.5%)	<ul style="list-style-type: none"> 販売価格の改定ならびに利益率の高いBtoB事業比率の上昇により収益力向上
税引前利益	52	34	△ 18 (△ 35.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 170百万円の為替差損が発生し減益 - 詳細は「金融費用（為替差損）の計上に関するお知らせ」（2022年11月4日発表）をご参照ください
四半期利益	36	31	△ 5 (△ 13.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 同上
資本合計	1,926	3,003	+ 1,077 (+ 55.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 2022/03期末の2,468百万円からは、+ 535百万円（+ 21.7%）増
自己資本比率	19.7%	25.9%	+ 6.2pt	<ul style="list-style-type: none"> 2022/03期末の24.5%からは、+ 1.4pt増
フリー キャッシュフロー	△ 991	△ 535	+ 456	<ul style="list-style-type: none"> 前年同期比改善も棚卸資産増加により黒字化に至らず

(百万円)

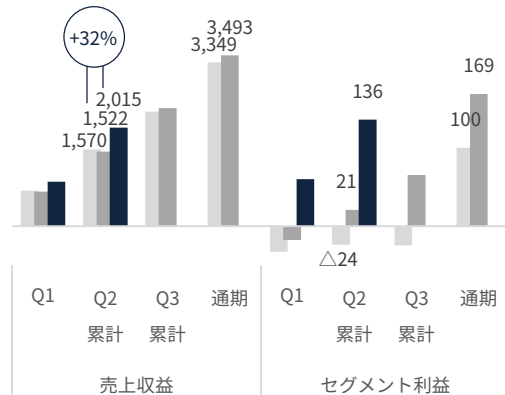
売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



情報機器事業 売上収益・セグメント利益



その他

・ ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)

- 国内市場では新型コロナウイルスの感染拡大における社会的な規制が徐々に解除され引き合いも増加。さらにブランド創設35周年記念のターンテーブルやパワーアンプなどの新製品を上市。海外市場は景気後退による消費マインドの後退や中国市場のゼロコロナ政策の影響で苦戦も、全体では僅かに増収

・ プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)

- 国内海外市場双方においてコロナ禍における巣ごもり需要は一段落。またウクライナ危機やインフレ圧力による景気後退懸念が特に欧州を中心に直撃し、普及価格帯の製品の販売が減少した結果、全体で減収

・ 音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業は、設備市場での需要回復が継続し定番商品の販売が安定している事に加え、品不足だった一部製品の供給再開による受注残消化が進んだこと、更には業務用デジタルミキサーの新製品効果もあり好調。一方BtoC事業は、供給増による受注残消化は進んだが、前年活況であった巣ごもり需要の反動減と一部製品における供給不足の継続により販売は低調に推移。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体としては僅かながら減収

・ 機内エンターテインメント機器

- 国内市場は依然コロナ禍の影響があるものの、保守サービスを中心に販売を積み重ねたことで堅調に推移。海外向けは既存顧客向けに大口の保守用部品の出荷があり好調に推移し、前年同期比増収

・ 計測機器関連

- データレコーダーは、国内市場での不調を海外向け出荷で補う結果となり堅調に推移。センサー関連は、好調の半導体製造装置市場全般で出荷増。特に大手プローブ装置メーカーへの出荷が大きく伸び、結果として、計測機器全体では前年同期比で大幅な増収

・ 医用画像記録再生機器

- 国内の消化器内視鏡向けレコーダーの販売が好調に推移、手術画像用レコーダーも国内・海外共に好調を維持。急激な円安と部品調達難による製造原価増には出荷価格の改定にて対応し、結果として、医用画像記録再生機器全体では前年同期比増収

・ ソリューションビジネス

- 大口取引先へのサービス業務PCの出荷が増えたこと停止による減収の影響はあったものの、大型受託開発案件を予定通り納入させた事、また医用向けサーバー及びびで堅調に推移

- 前年同期比増収増益

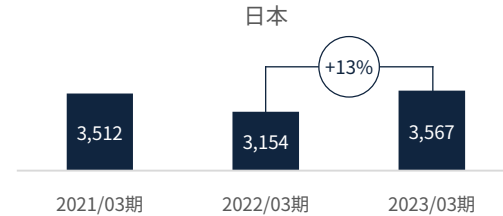
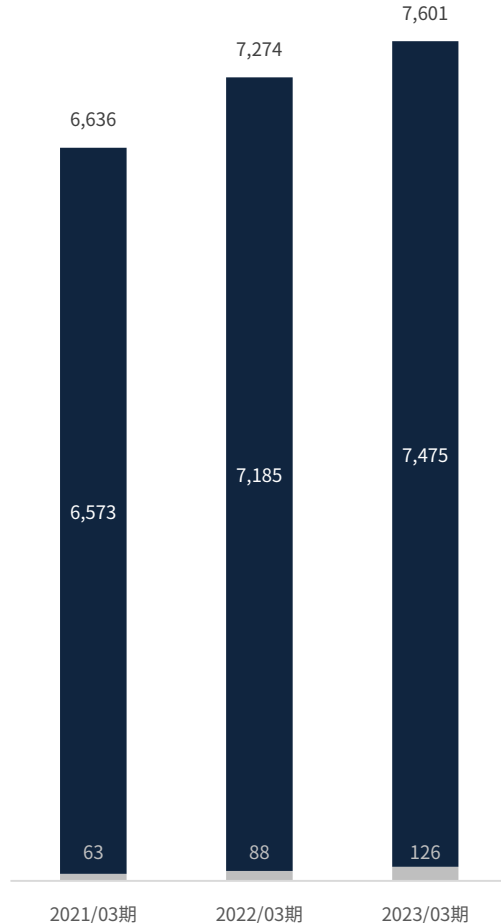
注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q2累計 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、-は同減収)

Q2累計 売上収益

■ その他地域

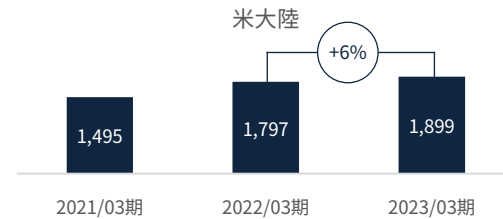


音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)

情報機器事業

- + 計測機器、医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器、ソリューションビジネス
- 無し

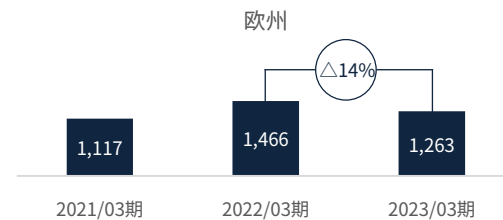


音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)

情報機器事業

- + 計測機器
- 医用画像記録再生機器

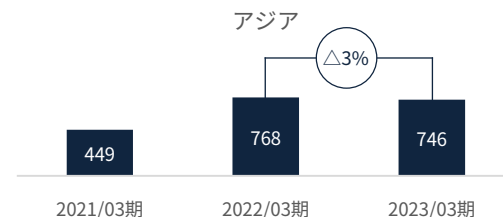


音響機器事業

- + 音楽制作用オーディオ機器 (BtoB)、業務用オーディオ機器 (BtoC)
- プレミアムオーディオ機器

情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器



音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoB)、業務用オーディオ機器 (BtoC)

情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器

註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q2累計 セグメント別・地域別構成比

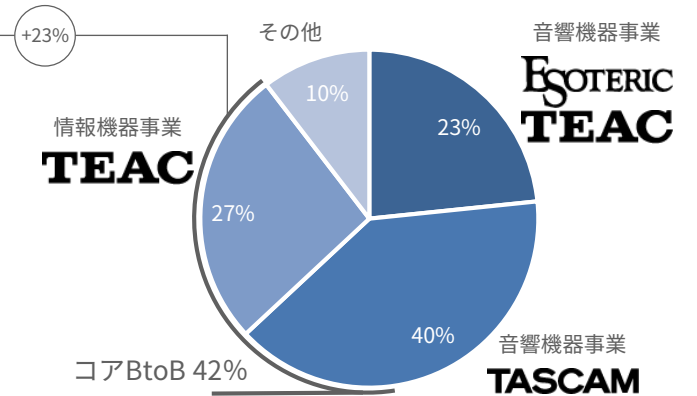
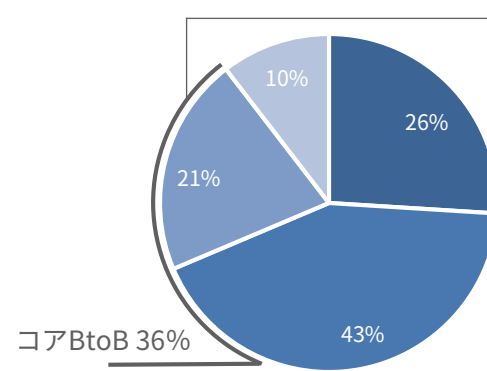
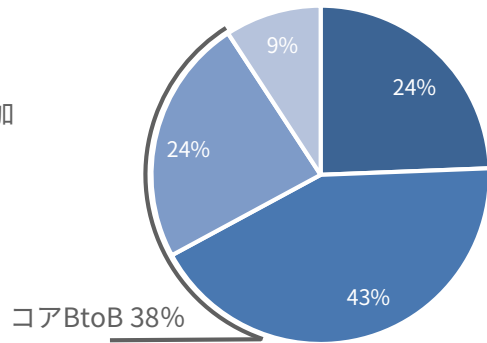
2021/03期 Q2累計 売上収益
6,636百万円

2022/03期 Q2累計 売上収益
7,274百万円

2023/03期 Q2累計 売上収益
7,601百万円

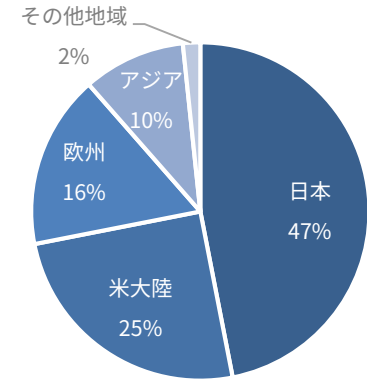
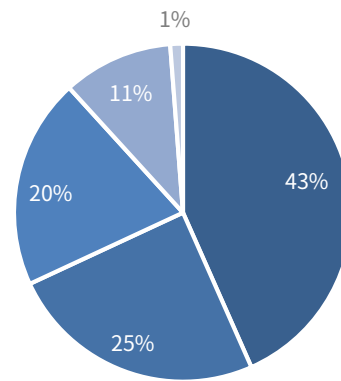
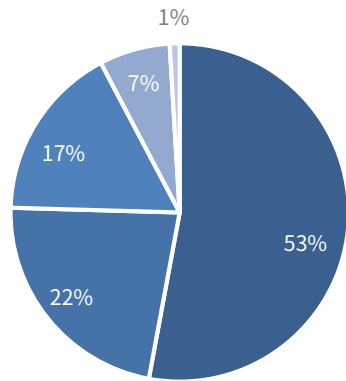
■ セグメント別

- BtoBは+ 23%増収
- BtoB比率は+ 6pt増加



■ 地域別

- 国内比率は+ 4pt増加
- 欧州比率は△ 4pt減少

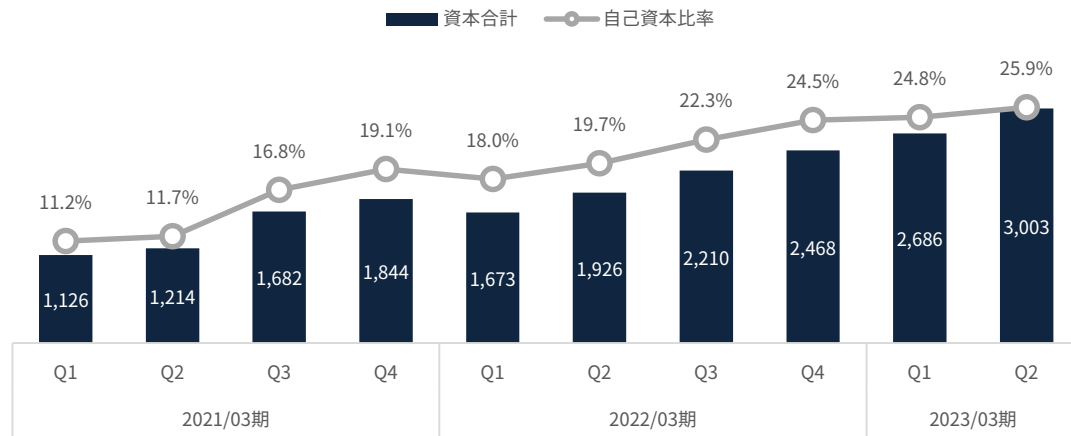


註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q2累計 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

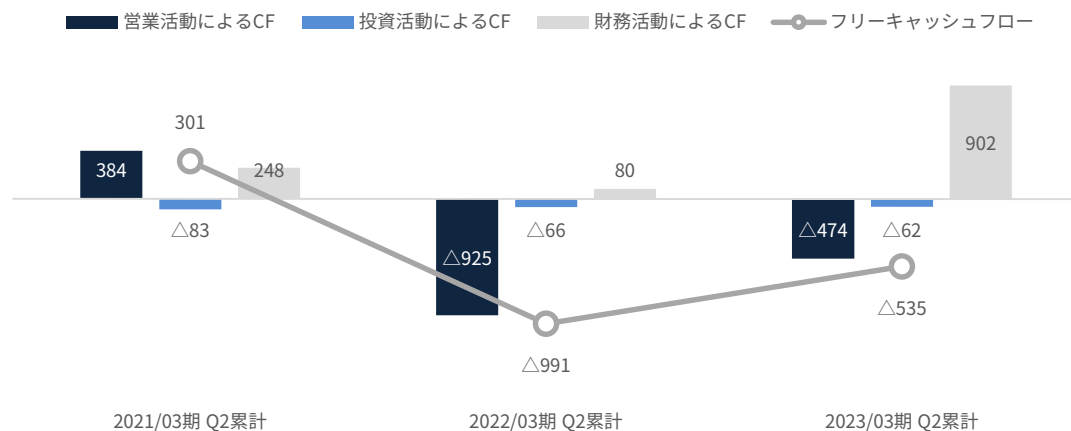
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 1,077百万円 (+ 55.9%) 増、前期末比+ 535百万円 (+ 21.7%) 増
- 自己資本比率：前年同期比+ 6.2pt増、前期末比+ 1.4pt増

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：営業キャッシュフローは△ 474百万円の赤字。前年同期比+ 451百万円圧縮されたものの、棚卸資産の増加を主因とし黒字化に至らず、フリーキャッシュフローも△ 535百万円の赤字

■ 2023/03期 通期予想は、前回予想（2022年5月発表）を据え置く

	2022/03期	2023/03期 予想	前年同期比	(百万円)
売上収益	16,004	16,100	+ 96 (+ 0.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 欧米におけるBtoC市況の停滞深刻化、ならびに半導体を中心とした一部電子部品の調達難の継続を想定
営業利益	654	430	△ 224 (△ 34.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 調達可能な部品についてもその価格は高止まり、更に円安進行が加わることによる海外生産品の原価上昇が、国内市場における収益性悪化リスクを高める
税引前利益	481	300	△ 181 (△ 37.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 支払い利息は運転資金借入方法変更後のそれに基づく
当期利益	392	200	△ 192 (△ 48.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年比△ 48.9%減益となる200百万円での着地予想を据え置く
資本合計	2,468	-	-	
自己資本比率	24.5%	-	-	
フリー キャッシュフロー	△ 289	-	-	

■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

- 米Premium Audio Company LLCと代理店契約を締結



米国VOXX International Corporation（NASDAQ上場）の子会社である Premium Audio Company, LLCが取り扱うKlipsch、Jamo、ONKYO、Integra及びPioneerブランドのホームAV製品の日本国内における販売代理店契約を締結し、関連製品の販売を9月より順次開始

PREMIUM AUDIO CO.

Klipsch Jamo Magnat

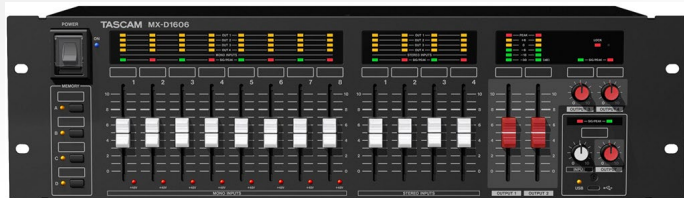
HECO® Pioneer ELITE

ONKYO® Integra ENERGY

■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- ・ 設備用ラックマウント型デジタルミキサーをJVCケンウッド・公共産業システム社と共同開発

JVCKENWOOD × TASCAM®



設備用ラックマウントデジタルミキサー MX-D1606

本製品は、文教、会議場、商業施設等でなくてはならない音響設備システムの中核をなすもので、これらの市場で多くの納入実績を誇る株式会社JVCケンウッド・公共産業システムのノウハウのもと、2023年夏の国内市場向け出荷開始を目指し、当社開発が進行中

すでに高いシェアを獲得しているTASCAMブランド業務用録音再生機器と、本製品を加えたミキサーラインナップ充実により更なる事業拡大を目指す

TASCAM ミキサーラインナップ



Sonicview 24

SB-16D

Sonicview 16



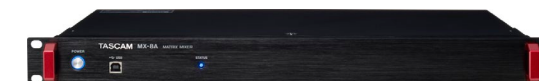
MZ-372



MZ-223



MZ-123BT



MX-8A



LM-8ST

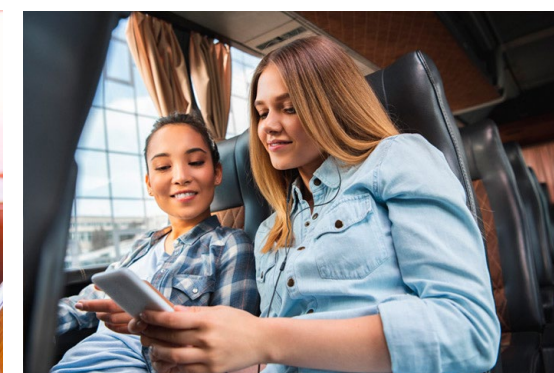
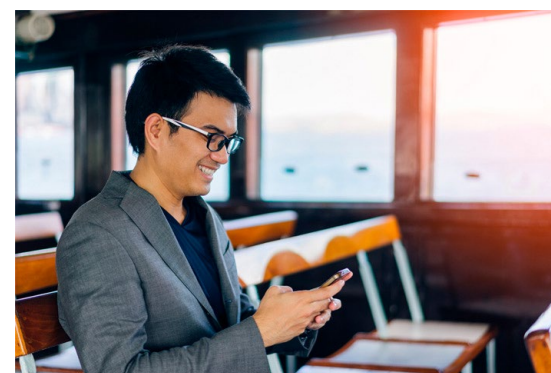
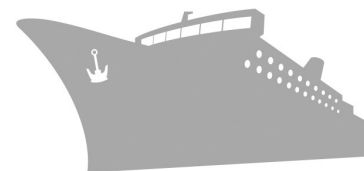
■ 情報機器事業 機内エンターテインメント

- 機内エンターテインメント機器の新たな用途として、インバウンド向け多言語コンテンツ配信システムをトラベルソリューション展に出品

観光バス車内や観光船内に設置し、観光映像と案内音声を乗客のスマートフォンやタブレットに多言語で同時配信するインバウンド観光支援システムをPortaStreamの新機能として開発。新型コロナの水際対策緩和により急増するインバウンド需要に備え、機内エンターテインメント機器の技術を応用した、新たなソリューションとして市場の拡大を目指す

プロモーション活動の第一弾として、9月に開催された国内最大の観光展示会、ツーリズムEXPOジャパンとの共催となる、トラベルソリューション展に出展

ツーリズムEXPOジャパン NIKKEI
トラベルソリューション展 2022



この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。